

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット／1階ユニット)

事業所番号	2771000557		
法人名	医療法人 博悠会		
事業所名	グループホームさくらんぼ中島		
所在地	大阪府大阪市西淀川区中島1丁目14番21号		
自己評価作成日	令和4年11月20日	評価結果市町村受理日	令和5年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.natoricare.org/grouphome/sakuranbo-n/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は入居者との笑顔を介した関係作りを重視すると共に、食事や洗濯の家事を始め、個々の強みを活かした取り組みやケアを実践している。
また、レクリエーションを通して、生きる活力が湧くよう定期的に開催している。
皆が個性を発揮し生きているという事に意味を持ち充実した生活が送れる様、職員間で話し合い介護計画の作成・実行・見直し・再計画のサイクルを回して計画の質向上を図っている。
また、法人内の病院と密な連携をとる事により、他グループホームでは実現しえない医療的支援を実現している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員全員で考えた理念「職員一同が利用者様を家族のように接し、利用者様の個性、尊厳を大事にし、本人本位の介護を心掛け、毎日の生活を家族や地域とともに支援します。」は、確実に根付いている。
コミュニケーションが良く取れ、利用者本位の介護が出来ている。この事業所は、勤続年数が19年の職員を筆頭に職員の勤続年数が長いので、利用者の趣味・身体状況等あらゆる事に精通していて、介護に漏れがない。家族や利用者の、どんな些細な意見にもよく聞き対応している。花の手入れが好きな利用者には、プランターの花の水やりを依頼し、家族のできる事は何でもさせてほしいの要望に、洗濯物たたみを依頼しケアプランにも加えている。家族の日頃の生活状況を見たいの要望に、コロナの少し収まった現在、家族を利用者の居室での面接に対応し応えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果 【3ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基本として事業所理念を掲げ、理念実現の為の介護計画立案には積極的に職員の意見を取り入れている。	事業所理念を職員全員で考え「職員一同が利用者様を家族のように接し、利用者様の個性、尊厳を大事にし、本人本位の介護を心掛けます。」と作り上げ、玄関、各ユニットの出入り口職員の詰所等、随所に掲示し、日々確認しながらケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は施設周りの道路掃除や溝の掃除の際に近隣の方達に積極的に挨拶や言葉掛けを行っている。	コロナ禍以前は、認知症サポーター養成講座の講師として参加していたが、コロナウィルス感染拡大防止のため休止中である。現在は、事業所周辺の清掃活動を利用者と共に行い、近隣の方々と挨拶を交わしたり、散歩の中でも常に出逢う近隣の方々とは挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルス感染拡大防止の為、職員が社会福祉協議会にて開催する介護家族の会に講師として参加する事や、地域住民の認知症ケアについての理解や支援の方法を広める活動が出来ていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルス感染症拡大防止の為、運営推進会議を中止し資料等を関係者の方にお送りして、取り組みなどを報告させて頂く事で、開かれた施設を目指している。	運営推進会議は、利用者及び家族・近隣住民代表・地域包括支援センター職員・事業所職員等が参加して、事故発生状況、苦情問題、行事および参加者数、等を報告話し合い、出された意見を、サービスの向上に活かしている。本年度は、4月、6月以外は、コロナ禍のため書面開催となっている。運営推進会議での報告書は、利用者家族全員に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウィルス感染拡大防止の為、3ヶ月に一度開催される西淀川区のグループホーム連絡会や、毎月開催される居宅支援事業所連絡会が開催されていないので、参加出来ていない。	区役所の保健福祉課担当窓口へは折に触れ訪問し、生活保護受給者の手続きをしたり相談等を行っている。地域包括支援センターとは運営推進会議で、色々と指導を得ているだけでなく、連絡会や研修・情報交換も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を開催して理解を深め、身体拘束を行う際はルールに則した対応をしている。また、3カ月毎に、身体拘束廃止委員会での検討会での話し合いを行い、全職員に結果を閲覧してもらっている。	身体拘束等の適正化のための指針を作成し3ヶ月に一度の委員会を開催している。委員会では議事録を作成し、職員全員に会議内容を確認、周知徹底を図っている。年2回身体拘束をしないケアの実践やスピーチロック等についての研修を行い、理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会を行うと共に、声掛けの内容なども含めて職員同士で注意しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネジャーは自ら学ぶことで知識を得る様にしている。必要に応じて助言や資料の提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事項については必ず文章と口頭による説明を行い、きちんと理解して頂けるような対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情に関しては声に出しやすい雰囲気作りを心掛けており、頂いた意見は施設内だけではなく法人全体で考えて対応する様にしている。また、早期改善に努めている。	家族や利用者の、どんな些細な意見もよく聞き対応している。花の手入れが好きな利用者には、プランターの花の水やりを依頼し、家族のできる事は何でもさせてほしいの要望に、洗濯物たたみを依頼しケアプランにも加えている。家族の日頃の生活状況を見たいの要望に、コロナの少し収まった現在、家族を利用者の居室での面接に対応し応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月必ず管理者を含めて話し合う場を設け意見交換を行い、職員から出た問題提起には皆で考え反映している。	毎月の会議は、何でも言える雰囲気では提案の場が設けられている。職員が日頃から利用者の体調を観察・排便コントロール表等観て行く中で、薬の利用に対する意見も出てくる、医者や相談の上変えた事がある。職員の勤続年数が19年を筆頭に、勤続年数が長く経験が豊富で、互いに相談し合ったり教え合ったり情報交換をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で様々な事業所を運営しており、職員のキャリアアップやライフスタイルの変化に対応できるような体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で定期的な勉強会を開催しており、職員のキャリアアップに繋がるような機会の提供を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルス感染拡大防止の為、以前行っていた、3ヶ月に一度開催される西淀川区のグループホーム連絡会や、毎月開催される居宅支援事業所連絡会が開催されていないので、情報の共有が図れていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護計画作成時には必ず本人・家族の希望や要望を聴取し、安心して生活して頂く為のケアを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護計画作成時には必ず本人・家族の希望や要望を聴取し、安心して生活して頂く為のケアを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム内で全てが完結するのではなく地域の資源を活かしたサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリなどを通じた家事への参加や役割づくりを行っており、他者へ貢献する事での社会参加を図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係を重視し、イベント時の参加声掛けなどで関わって頂く機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナウイルス感染症拡大防止の為、散歩や買い物に行くのが難しいので施設内での馴染みのある関係作りに励んでいる。また、制限付きの面会で家族様との関係を築いている。	コロナ禍の中、馴染みの場所であるふれあい喫茶や買い物等には行けていないが、近くの公園や事業所の周りを散歩して、出会った近隣の住民との挨拶は交わしている。また、コロナが少し落ち着いた今、家族には利用者の部屋で面会するようにし関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、落ち着いた環境で過ごせるよう顔なじみの方と一緒に過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された場合でも必要に応じて、相談に乗るなど支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時には必ず本人・家族の希望や要望を聴取し、安心して生活して頂く為のケアを心がけている。	利用者本人がどのように暮らしたいか、一人ひとりの希望や意向は、毎日の関わりの中で生活歴を参考にしながら、食事の希望や趣味等を申し送りノートに書き出し職員間で共有している。表現の難しい利用者には、家族に聞いたり利用者の表情を見るなどして、出来るだけ意向に添った支援をするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはこれまでの生活歴や職歴、本人の性格や趣味趣向などの情報を家族から頂くと共に本人との会話の中で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画立案時にはアセスメントとして身体能力や生活能力の把握を行う為に本人観察を行い、同時に普段からケアに当たっているスタッフへ聞き取りを行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時に関係者が集まって意見交換をする事が困難である為に、面会時や電話時に状態報告を行ったうえで意見を聞いており、ケアマネジャーが集約して立案に活かしている。	ケアマネジャーが本人・家族の意見及び要望、職員の意見、医師・看護師の意見、を聞いた上で支援経過や月ごとのモニタリングを参考にしながら6ヶ月12ヶ月毎に介護計画を集約し担当者会議にかけ作成している。介護計画には、利用者及び家族の要望である「花の水やり」や「洗濯ものたたみ」等がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化などを細かく記録していく事で介護計画見直しに活かしている。また、気になる事柄に関しては、職員間で常に話し合うように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族やご利用者のその時の状況によって買物代行や衣類等の補充など必要な支援ができる様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民を本人の資源と考え、グループホームのケアを理解して頂ける様な環境づくりを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	名取病院の医師と看護師と毎日健康状態の把握して連携する事によって迅速な対応ができています。	個室の名札は基本的にはないが、わかりにくい人のためには書かれていたり、扉にミシンやボタンの大きなイラストの貼られた部屋は昔縫製の仕事をしていた人の部屋だそう。ベッド、カーテン、洗面台の他は、持ち込みでテーブル、椅子、チェスト、仏壇など好みのものが持ち込まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	名取病院の看護師と連携し24時間サポートしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内の【名取病院】と密な連携を取っており、早期退院を実現できる体制作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り方針を作成しており入居時に説明し現段階での最後のあり方を確認している。その後も状態の変化がある度に考えを聞いている。	以前は看取りを行っており、書類には現在もそのように書かれているが、実際はここ数年は希望者もおらず、医療側の体制も整っていないので積極的な対応はしていない。今後事例が発生すれば調整していく必要があると、事業所は考えているが見通しは不明である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で事故対策委員会を開催しており、定期的な話し合いや勉強会を実施している。また、急変時の報告をスムーズに行う為に急変時チェックリストに記入の上報告するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の救援要請など近隣と協議しており、消防署と共に避難訓練など行っている。また、全職員が動画を通して防災訓練を行っている。	前回、外部評価調査時に火災の夜間想定訓練ができていなかったため、今年度は実施した。備蓄品の充実も達成できた。立地的に浸水の高リスクが高く、災害別の利用者の避難の方法について考えることは今後の課題と認識している。次回消防署立会い訓練の際にアドバイスを受けて対応策を検討する予定である。	地域協力は不十分なので、地域の防災訓練に参加することから始めて行くことと、BCPIについても取り組み始めることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの方法や内容などに関しては年長者に対する尊敬の念を忘れない様にしており、間違いがないかスタッフ同士で確認しあっている。また、間違いがあればスタッフ間で注意し合える関係づくりを努めている。	呼び名は「さん」づけで、馴れ馴れしすぎないように気を付けている。利用者間のトラブルに介入する場合は、とくに一人ひとりの気持ちを傷つけないような対応に配慮している。利用者のいるところでは記録を書かないようにしており、見られても困らないような書き方の工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動の前には必ず声掛けて本人の意思を確認し同意を得る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な食事開始時間などは決まっているが、本人の気分や状態に応じて臨機応変に対応している。また、早く食事をしたい方への対応も臨機応変に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昼間・夜間のメリハリをつけられる様に更衣は必ず行っており、服を選ぶ際は本人に声掛けて確認を行っている。又、自宅におられた際に使用していた馴染みの洗顔料等も継続して使用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の提供方法を工夫し、皆さんの好みの提供方法を行っている。また、ビール缶、ワンカップ瓶にお茶を入れて提供する等馴染みのある提供方法を行う工夫を行っている。	食事は母体病院のセントラルキッチンで調理し車で運んで来て、(10分ほど)事業所で配膳提供している。朝食、炊飯、汁物、食形態変化は事業所でしている。病院栄養科と連携して、利用者の好みなどに対応している。感染予防のためおやつレクは中止しているが誕生日はケーキを購入してお祝いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録を行い栄養状態の目安とし、看護師・医師へ報告する事で適切な対応が行える様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	法人内の訪問歯科指導のもと毎日の口腔ケアを実施している。また、気になることは歯科医師へ質問して適切な口腔ケアの実践を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、失禁状態にある方の排尿パターンを把握する事により適切なトイレ誘導が行える様にしている。	現在は自立の人は5人くらい、オムツ交換の人は3分の1くらいで、その他の人は見守り以上の何らかの介助が必要で、その人にあった排泄間隔を考えてトイレに誘導して、失禁が少なくなるような支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り自然な排便が行える様にしっかりと水分摂取を行って頂ける様に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日をあらかじめ決める事は行わず、毎日の健康状態や本人の意向で入浴を決めている。	以前、強い入浴拒否のある利用者の入居があった。足浴、手浴から始めて、更衣、シャワーと時間をかけて粘り強く進めていき、今では入浴ができるようになった例があった。希望に合わせるが最低週2回入浴できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況や前夜の睡眠時間により、日中横になる時間を確保している。横になって頂いた場合も眠りすぎて夜の睡眠を妨げない様に時間を決めて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の情報をファイルに保管していつでも確認できるようにしている。薬の数に間違いが無いようにチェック表を作成し確認している。また、2人でダブルチェックを行い確実に服用できる体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	意味のある時間が過ごせる様に、塗り絵や手作業などレクリエーションを提供しているが、生活の場である事を考慮して無理強いしない様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で戸外に出る機会はほとんどないものの、定期的なイベントを通して、楽しみを見いだせる支援を行っている。また、家族と面会も制限付きで行っている。	法人の方針に従うが、近くの公園、近隣散歩はしており、お正月の初詣では少人数ずつ、行きたいと計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所金庫で預かり金を管理しており、その人のリクエストに答えるよう代わりに購入してくることで、安心してもらえる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛ける支援や手紙で近況を報告する等行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自らの意志でトイレを利用して頂く為に、トイレ扉に表示を行うなど行っている。	訪問時は12月だったので、玄関前もフロアもクリスマスの飾り付けがきれいにされていた。廊下の隅にソファがおかれていて、歩行訓練する人の休憩や一人になりたい人の居場所に利用されている。古い建物だが、清潔で住み心地よさそうに保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースが広いという施設の利点を活かし、机を組み合わせたり離したりする事で工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具の持ち込みをお願いしており、本人が落ち着く生活環境の構築を心掛けている。	個室の名札は基本的にはないがわかりにくい人のためには書かれていたり、扉にミシンやボタンの大きなイラストの貼られた部屋は昔縫製の仕事をしていた人の部屋だそうだ。ベット、カーテン、洗面台の他は持ち込みでテーブル、椅子、チェスト、仏壇など好みのものが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見当識障害がある方にも理解して頂きやすいように表示を工夫する等行っている。		